

ICT:ロイロノート活用における授業実践

京都府立洛北高等学校 教諭 竝川幸子

教科(科目)	家庭基礎
題材	ホームプロジェクト
題材計画	1 自身の食生活における問題点や課題を考え、課題克服に向けて実践計画を立てる 2 夏休み中に実践すると共に、レポートを完成させる 3 ホームプロジェクトの1分間スピーチと相互評価(本時)
本時の目標	ホームプロジェクトの1分間スピーチを通して、課題や実践内容等を簡潔にまとめ、1分以内に伝えると共に、聞く側も自身で評価基準や観点をつくり評価する力を身につける。
ロイロノート活用のポイント	ホームプロジェクトのレポートをロイロノートの提出箱に提出させることにより、各生徒の実践内容をタブレットで確認できるため、互いに発表内容について理解を深めることができる。また、発表者は、タブレット上のレポートを活用しながらより具体的な発表に繋げることができる。

授業の展開

導入

- ホームプロジェクトの1分間スピーチの実施について、夏休み前に予告していたことを確認する。
- スピーチと評価方法(相互評価)について説明する。

展開

- 1分間スピーチの準備
 - ・発表内容を1分以内にまとめさせる。
 - ・計時し、発表の練習をさせる。
- 1分間スピーチの実施
 - ・順に発表させる。コメントする。
 - ・発表内容と併せて、レポートをタブレットで確認しながら評価させる。
 - ・発表内容に質問があれば回答させる。

まとめ

- 発表内容について講評する。
- ホームプロジェクトのレポートと評価表を回収する。



[発表方法の指示・確認]

[発表準備中]



[発表場面]

マイクを使って発表



[タブレットで確認]



発表者名	発表内容	評価
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41

[評価表]

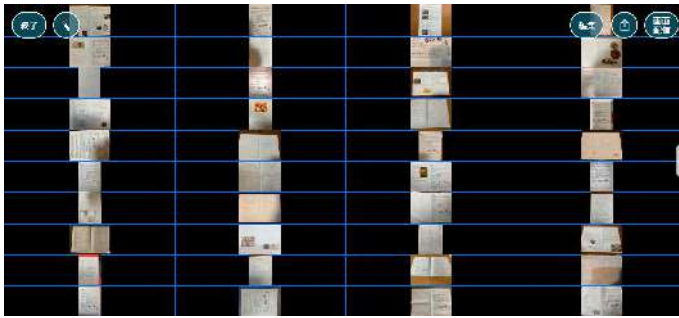
ひとりの生徒はA・B⁺・B・C・D・E 6段階で評価

成果と課題

昨年度までは、発表者のスピーチのみ(発表の仕方や内容)で相互評価をしていたが、今年度はスピーチ及びタブレットでレポートを確認しながら評価する形式に変更した。
結果、発表者の研究・実践内容等をより具体的に理解・把握することができ、また、発表者自身もレポートを提示することにより説明がしやすくなり、互いに一層深い学びに繋がったと考える。
今回初めてロイロノートの提出箱への提出を試みたが、単にレポートの写真を撮るだけでなく工夫して(次ページに掲載)提出する生徒もいた。その提出方法や評価の在り方が今後の課題となる。

ロイノート提出箱への提出時における工夫

課題：「ホームプロジェクトのレポートを写真に撮って8月27日23:59までにロイノートの提出箱へ提出」
 レポートの写真を撮って提出するよう指示したが、自分で工夫して提出した生徒もおりその一部を紹介する。



提出された作品一覧（1クラス分）

→ 一部拡大（写真を添付したレポートもある）

提出時工夫のある作品① テーマ「自立のためのクッキング」

テーマ決定の理由：夏休みは料理に励む絶好のチャンス。お弁当のおかずを自力で作れるくらい上達したい



レポートは両面印刷で、二つ折りにして提出。
 ←表紙となるページにはテーマ及びそれを選んだ理由
 そして家族の感想を記入。

レポートには料理の写真やイラストはないが、
 タブレット上で確認したところ、(○)を押せば
 6日間彼が作った料理が写真でわかる。



ひと言：僕が作った料理を見て欲しいと思い、掲載しました。

提出時工夫のある作品② テーマ「目指せ1日1,500円1週間クッキング」



ひと言：7日間の料理をひと目で
 わかるように掲載しました。

タブレット上のレポートを見た生徒の感想

- ・たくさん料理を作っていて、データを集められていた。
- ・レポートがとても見やすかった。
- ・写真を含めてよくできたレポートだと思う。